

フルオレセイン モーニングカンファレンス

眼底検査によって、神経や血管の生きたマクロ病理所見を直接観察できることが、眼科医の大きな特権である。フルオレセイン蛍光眼底造影(FA)検査は、脈絡膜血管と網膜血管の構造の相違、血液網膜柵によるフルオレセインナトリウムの透過性の制御などの特徴を生かして、脈絡膜、網膜、視神経乳頭の血流異常や生理的なFAパターンを変化させる病態の検出に非常に有用であり、眼底写真とFA写真を検討することで、多くの疾患が解明されてきた。そして、最近の光干渉断層計(OCT)の急速な進歩で、in vivoで網脈絡膜の組織像を観察できるようになり、さらに病態解明が進んだ。

これまで多くの疾患概念を提唱されてきた先人たちはFA写真の読影を非常に丁寧にを行い、眼底疾患の解剖や病理組織と比較検討しながら、それぞれの病態を考察されてきた。OCTが登場して眼底組織レベルでの詳細がさらに把握しやすくなった現時点で、FA読影から読み取れる内容はさらに深くなっている。

本カンファレンスでは、伝統的なFAカンファレンスを行っている数施設から症例を提示いただき、OCT時代のFA読影の面白さを参加者一同で経験していただきたい。



Akito Hirakata

座長

平形 明人先生

杏林大学医学部眼科学教室 教授

日時:2011年10月10日(月) AM7:45~8:45

会場:東京国際フォーラム 第5会場[ホールB5(2)]



Tomohiro Iida

座長

飯田 知弘先生

福島県立医科大学医学部眼科 教授

Masaaki Saito

齋藤 昌晃先生

福島県立医科大学医学部眼科 講師

Hideki Koizumi

古泉 英貴先生

京都府立医科大学眼科学教室 助教

演者

Taku Sato

佐藤 拓先生

群馬大学医学部眼科 講師

Ryusaburo Mori

森 隆三郎先生

日本大学医学部視覚科学系眼科学分野 助教